

東京音楽大学付属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	パンフルートCD「青と緑のあいだ」
Title in another language	Self-commentary on the CD Album "Between Blue and Green" - Five works for Pan Flute
Author(s)	櫻岡史子 (SAKURAOKA Fumiko)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 11, p. 69-72
Date of issue	2022-03-29
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	https://tcm-minken.jp/publication/IE_B11202108.pdf

パンフルートCD「青と緑のあいだ」

Self-commentary on the CD Album "Between Blue and Green"- Five works for Pan Flute

櫻岡史子 SAKURAOKA Fumiko

本稿は、筆者が2021年に「青と緑のあいだ」と題してパンフルートのために作曲した5曲を収録したCDの解説である。この5曲は、世界三大演劇祭の一つであるFETS2021シビウ国際演劇祭で、日本の桜などの美しい風景動画とともに披露された。

キーワード: パンフルート Pan flute、パンフルート奏者 Pan flutist、
ルーマニア Romania、ゲオルゲ・ザンフィル Gheorghe Zamfir

1. はじめに

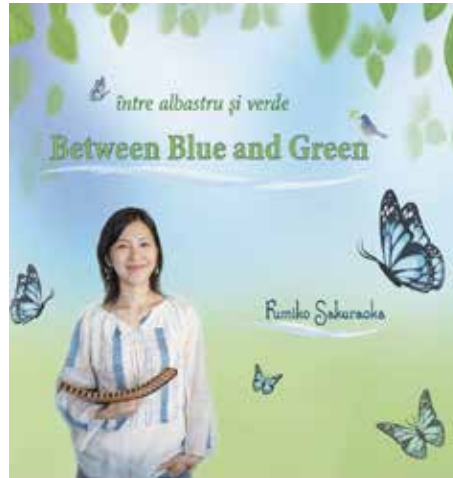
パンフルートの歴史は古代ギリシャ時代に遡る。ギリシャ神話の中に登場する牧神パンが吹いていた楽器だ。ルーマニアでは民俗楽器ナイ Nai として大切に演奏されてきた。日本には、中国より唐楽として伝来し、音楽の中でも演奏されていた時代がある。シルクロードの終点地と言われる正倉院の南倉には、甘竹簫（かんちくのしょう）という名でパンフルートが納められており、日本の歴史にも登場している楽器だ。古来よりほとんど形を変えることなく、今日に伝わるこの楽器は、様々な形状のパンパイプとして世界中で演奏されており、世界との架け橋となる楽器であると言えるであろう。その軌跡を辿ると胸が高鳴る。

本解説は、筆者が制作したアルバム「青と緑のあいだ」についての解説である。パンフルートのために作曲した5曲を収めている。これらは世界三大演劇祭の一つであるFETS2021シビウ国際演劇祭に、筆者がアジア人パンフルート奏者として初めて出演し、ルーマニア人ピアニストのクリスティアン・アガピエと共演し演奏を披露した楽曲である。

2. 青と緑のあいだ

パンフルートを最初に演奏したのは誰か、それは「風」である。まだ、地球上に何も無い時代にアシやヨシと呼ばれる植物（葦）が地上に根を張っていた。その葦は、風に揺れる度に音を発した。これがパンフルートの始まりである。パンフルートは自然の中で、風とともに歩んできた楽器だ。

「青と緑のあいだ」のタイトルは、青空と緑（大地）のあいだに吹く風、空と大地をつなぐ風という意味が込められている。



3. 曲の解説

3-1. 《風土記への道》

この曲は、島根県松江市大庭町にある「はにわロード」をイメージして作曲した。はにわロードは美しい大自然に囲まれ、小鳥のさえずりや四季折々の花々を見ることができる。その道は、島根県立八雲立つ風土記の丘へと続いている。八雲立つ風土記の丘一帯は、奈良時代に編纂された『出雲国風土記』のくにびき神話ゆかりの地、意宇郡の中心にある地域で、奈良時代の政治、経済、文化の中心地として国庁、国分寺、出雲国造家ゆかりの神社や寺もあり、文化の一大宝庫である。

3-2. 《新月の竹》

日本では、古来より竹は身近なものであった。月も日本人に愛でられ、多くの歌を生み出してきた。日本最古の物語の中にも月と竹が登場する。竹の楽器パンフルートは、心を揺さぶる哀愁漂う音色を奏でることができる。この曲は2021年2月の新月の日に作曲された。10数年ぶりに再会した友人とパンフルートについて語ったという穏やかな時間と空間が表現されている。時を経ても変わらないものがあると感じた瞬間である。



写真提供：櫻岡史子

3-3. 《青花と城壁》

この曲は2018年4月に訪れたルーマニアのシビウでの思い出を表現している。シビウの街には、城壁がある。城壁に設置されている塔は、街を守る見張り台の役割を果たしていた。塔の名前は、火縄銃士の塔である。城壁の前で、パンフルートを演奏していると、中国人がやってきて、「何を演奏しているのですか」と尋ねられた。「パンフルートを練習していました」と答え、10分くらいシビウの旧市街を一緒に歩きながら話をした。短い間だったが、話をする中で、繊細で表現力があり、才能に溢れた人だと感じた。ふと空を上げると、青空に白い雲がたなびいていた。櫻岡は、中国の陶磁器「青花」に例えた。白い陶磁器に青い模様が描かれた高級陶磁器は、元王朝（1127-1279）に登場し世界中で良く知られている。この陶磁器は、中国から、日本、韓国、ヨーロッパに広がり、国境を超えて世界中で愛されている。城壁は、市を守り、外の世界から隔離する役割がある。この曲は、美しい街にたとえ城壁があっても、この素晴らしい陶磁器「青花」が世界中に広まって行ったように、音楽には国境がないという考えを表現している。



写真撮影：Shijie Ding
場所：ルーマニア シビウ市

3-4. 《立葵》

この曲は、2016年にスイスを訪れた一人旅での思い出を表現している。スイスのチューリヒに一泊し、朝、街の中を散歩していると、立葵の花を見つけて思わず写真を撮った。太陽に向かって真っ直ぐに咲く花を見て、元気や勇気をもらったのである。ルーマニア民謡からヒントを得て作曲されている。スイスは、師匠ラドゥ・ネキフォル Radu Nechifor に出会った場所だ。師匠やパンフルートを大切に守ってきたルーマニアの方々への感謝の気持ちが表現されている。



写真提供：櫻岡史子
場所：スイス チューリヒ



写真提供：櫻岡史子
場所：東大寺

This is a self-commentary on a CD containing 5 works composed for pan flute by myself, Fumiko Sakuraoka, in 2021, entitled "Between Blue and Green". These five works were performed at the FETS2021 Sibiu International Theater Festival, one of the three major theater festivals in the world, along with beautiful landscape videos featuring Japanese cherry blossoms.

(本学付属民族音楽研究所講師 日本ルーマニアパンフルート協会会長 パンフルート)

